

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 玉名市

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
- 現在の人口：64292人、将来：57001人（2030年）、46675人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
- 地域の総合計画に示された将来目標
将来人口 現状：64292人→目標：62,000人（2026年）、
一般廃棄物処理量 現状：16,806t(H30)→目標：14500t（R4）
- 地域の環境分野の上位計画の将来目標 くまもとグリーン農業応援宣言者数 598件(H28)→1500件(R8)
地球温暖化対策実行計画 現状：14003t(H25)→8401.8t(2030年)

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- ・ワークショップ開催（仲間づくり）：ステークホルダーミーティングを継続的なモノにする。
- ・任意団体化：行政の声掛けミーティングではなく、自律的な組織へ（地域運営組織化に向けて）
- ・小さなアイデアをカタチにしてい

→住みやすい地域をつくりだす事業、地域で稼げる仕組みづくり事業、天水地域自治協議会（地域運営組織）事業

- ・事務局を行政から地域運営組織へ移行していく

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2023年度末)	実績値 (2023年度末)	単位
環境	ジビエ加工場の検討	ジビエ加工場の検討	0	1	1	回
	地域フィールドワーク	大学の地域フィールドワーク	0	1	1	回
経済	農産物加工品試作	農作物加工品の検討	0	3	10	個
	EVシェア事業の実施	年間利用者数	0	0	0	回
社会	ステークホルダー人数の増加	ステークホルダー人数	26	26	26	人
	ワークショップの開催	ワークショップ開催回数	3	2	3	回
	事業化	事業化数	0	0	0	数

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

目指すべきもの：地域人材エコシステムの確立～帰って来たい天水町に～

→ ※地域人材エコシステムとは、社会的課題を経済活動を伴うアソシエーションや企業のCSVによって解決を図ること、次世代が地域に役割や希望を感じ、地域の担い手として循環していく社会システムのこと。地域課題を解決することで環境の維持・改善を目指す。

（環境）みかん畑の景観の維持
（経済）小さなプロジェクトが繋がり、稼げる仕組みづくり
（社会）個々人のチャレンジをリスペクトし、横に繋がるまちへ

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2024年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	ジビエ加工場の稼働	ジビエ加工場の出荷数	0	10	2030年度	100	回
	地域フィールドワーク	大学の地域フィールドワーク	0	1	2030年度	5	回
経済	農産物加工品の販売	農作物加工品の販売	0	10	2030年度	30	品
	EVシェア事業の実施	年間利用者数	0	100	2030年度	100	回
	廃校施設利用者数	廃校施設利用者数	0	50	2030年度	100	人
社会	ステークホルダー人数の増加	ステークホルダー人数	30	50	2030年度	100	人
	ワークショップの開催	ワークショップ開催回数	0	2	2030年度	3	回
	事業化	事業化数	0	2	2030年度	2	回

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

今回は、分断している地域社会に新たな人々のつながりを創ることを主眼に活動をしてきた。過疎指定地域になったことで「何かやらなければ将来はないのではないか」という気持ちになったと思われる。一方で、このような人々の集まる場の重要性を感じた。このような未来を創っていける人材が繋がり、一步を踏み出せるようなプラットフォームを目指したい。

ただ、妄想ばかりでは進歩がないので。小さい事柄（例えば、農産物加工品の試作や製造について）をたくさん創ることを目指したい。本地域はみかん栽培という環境に直結した地域であり、さらに課題点も多く存在します。みかん栽培の現状を解決していくことが、地域の環境を維持し、さらに経済活動、そして地域全体の暮らしやすさ（社会）の改善に繋がると思います。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください